

見慣れない食品に対する回避的態度の数値化

－日本人のフードネオフォビア傾向－

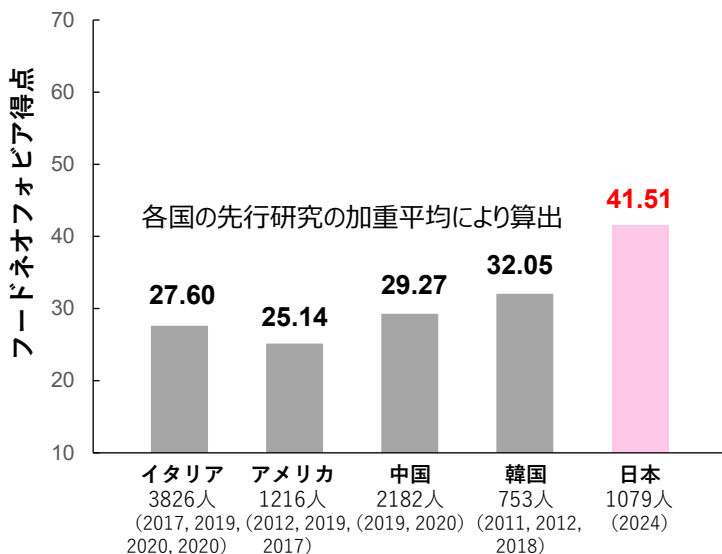
成果の特徴

- ・既存の海外版を翻訳し妥当性を検証することで新規食品に対する回避的態度（フードネオフォビア）を数値化する日本語版尺度を開発しました。
- ・他国（既報）と日本人のフードネオフォビア傾向を比較することが可能になりました。
- ・新規食品は認知度を高めることで、摂食意欲を高められる可能性が示唆されました。

成果の内容

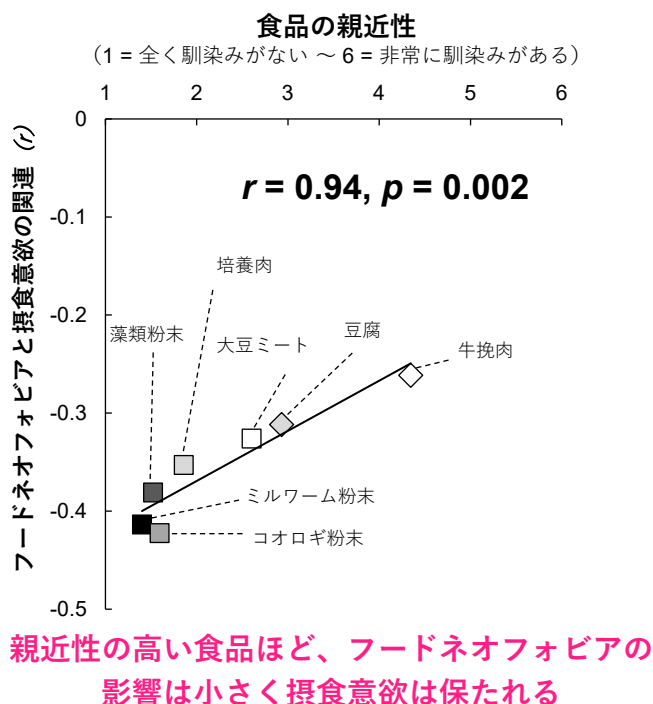
- ・日本語版フードネオフォビア尺度（J-FNS-A）

「私は、今まで食べたことのないものを食べるのが怖い。」などの8項目で構成される「私は、新しい食べ物を信用していない。」



各国の先行研究の加重平均により算出

本研究で明らかにした日本人の得点は、先行研究で報告される他国よりも高い



想定される用途・連携希望先

本成果は、新規食品の受容性を高める手法開発（ナッジ、プライミング）に活用できます。新規食品の開発・販売を目指すメーカーや公設試などの機関との連携を希望します。

参考

Kamei M, Nishibe M, Horie F and Kusakabe Y (2024) Development and validation of Japanese version of alternative food neophobia scale (J-FNS-A): association with willingness to eat alternative protein foods. *Front. Nutr.* 11:1356210. doi: 10.3389/fnut.2024.1356210

※本研究はJSPS科研費 21K17569の助成を受けたものです。

担当研究者：亀井 誠生
所 属：食品研究部門
食品健康機能研究研究領域